

だて歴史文化ミュージアム 刀鍛冶見学

日本刀鍛錬とは

鋼を何度も折り返して鍛えることにより、粘りをもたせて強度を増し、不純物を叩き出し、炭素量を平均化させる作業。刀匠だけでは出来ない作業なので、向こう鉋とともに作業を行います。この事を「相槌(あいづち)を打つ」といいます。



学習のポイント

刀鍛冶を体感できるのは伊達市だけ!

刀匠 渡邊惟平が火花を散らしながら日本刀の材料になる圧金を仕上げる刀剣製作を見学。刀匠やお弟子さんから話を聞くことも出来ます。日本に受け継がれる伝統技術に触れ、職人技を体感していただけます。

刀鍛冶見学の流れ

所要時間

個人/団体 30~40分



①熱さが伝わってくる迫力の技を目の前で見学



②お弟子さんとの相槌も息をのむほどびったり



③刀の作り方をレクチャー



④刀匠への質問タイム

※作刀状況により鍛錬作業以外の見学になる場合があります。

日本刀(刀剣)が出来るまで

水減し(みずへし)

素材となる「玉鋼(たまがね)」を硬さで選別

小割り(こわり)

水減しをした鋼を適当な大きさに割る

鍛錬(たんれん)

鋼を折り返して鍛えることにより、不純物を取り除くこと、炭素量を均一化させる



素延べ

鋼を熱しながら刀身の形になるように打ち伸ばしていく

火造り(ひつくり)

日本刀(刀剣)の形を作り上げる

焼入れ

日本刀(刀剣)のポイントである刃文と反りを決定付ける

鍛冶押し

刀身を研磨する「鍛冶押し」(鍛冶研ぎ)、柄(つか)に覆われる茎(なかご)にやすりをかける「茎仕立て」を行う

銘切り

自分の作品としてふさわしいでき栄えであると刀匠が納得して銘を切れば、日本刀(刀剣)の完成

だて歴史文化ミュージアム 体験学習館 刀鍛冶工房

住所 | 伊達市梅本町57番地1
電話 | 0142-25-1056
開館時間 | 9:00~17:00
休館日 | 毎週月曜日/年末年始
(月曜が休日の場合はその翌日。連休の場合は、終了後の翌日)

観覧料

無料 | 要予約

惟平刀匠は昭和24年に生まれ、本名は渡邊徹。昭和49年に宮入昭平師(人間国宝)に入門。昭和54年には文化庁より作刀承認を受けて独立し、北海道伊達市に鍛冶場を開設しました。以後新作名刀展において多くの賞を受賞しています。



刀匠 渡邊 惟平さん

